

繊維月報



ITOCHU Mission

Committed to the global good

豊かさを担う責任

vol.619
2011
since 1960

11

毎月1回発行

発行：伊藤忠商事株式会社 繊維経営企画部
大阪北区梅田3-1-3
TEL：06-7638-2027 FAX：06-7638-2008
URL：http://www.itochu-tex.net

本紙に関するご意見・ご感想をお寄せ下さい。osaxp-ad@itochu.co.jp

Vol.619 CONTENTS

Special Feature /	進化する“ニッポン繊維機械”	1-4面
Topics /	ニュース・クリッピング/マーケット・レポート	4面
World Report /	最新の中国情勢とビジネス事情(中)	5面
Fashion Report /	イスタンブール ファッション	6面

激烈グローバル競争をリードする

進化する“ニッポン繊維機械”



高速化、省エネ化、原材料ロス軽減という普遍的テーマの実現とともに、アナログからデジタルへと進む繊維機械・機器。衣料用、産業資材両分野への対応など用途開発、一方では新興国や先進国市場での需要振興策など課題が山積しています。2011年9月22～29日にスペイン・バルセロナで国際繊維機械見本市「ITMA2011」が開かれました。この機会をとらえ、グローバルに戦う日本の繊維機械メーカーに、繊維機械市場の現状と将来をお聞きしました。

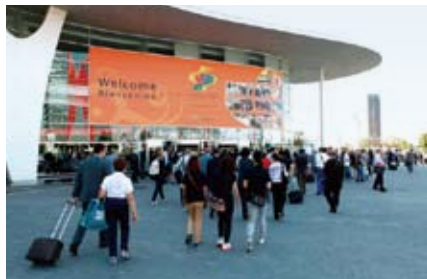
(*各社に取材し、紙上座談会としてまとめました。聞き手は伊藤和夫伊藤忠システック社長、繊維経営企画部)

お話を
お聞きした方々
(順不同)

村田機械株式会社 取締役繊維機械事業部長兼大阪支社長 高久 博史 氏 / 繊維機械事業部 営業部長 山口 俊宏 氏
(*発言は高久氏としてまとめました)
株式会社豊田自動織機 執行役員繊維機械事業部副事業部長 豊田 晋 氏
福原産業貿易株式会社 取締役 藤澤 恒 氏 / 取締役 福原 正則 氏 (*発言は藤澤氏としてまとめました)
株式会社日阪製作所 専務取締役技術担当兼鴻池事業所長 石丸 治 氏
東伸工業株式会社 代表取締役社長 一ノ瀬 孝一 氏



聞き手 伊藤忠システック
伊時社長



国際繊維機械見本市「ITMA2011」の会場
(出所：ITMA2011ホームページから)

ITMA2011バルセロナ

環境・省エネ・メンテナンス

ITMA2011の印象をお聞かせください。
高久 グリシャの金融不安など欧州経済の先行きに不安がもてる中で開かれたITMAですが、思いのほか来場者も多く、手応えのある展示会となりました。出展メーカーは全体的に、環境対応 省エネ 高生産性 メンテナンスの容易さをそれぞれ強調されていた印象を受けました。

豊田 全体として、いつもより機種が少ない、逆にいうと出展されている機械が精選されている印象を受けました。主催者側がITMAのステータスを守るという矜持とでも申しましょうか、特許に抵触しかねないコピー機メーカーを排して、オリジナルメーカーだけを厳選して出展させた、という印象です。来場者もそこそこの規模で、実りある商談ができました。

藤澤 前回のミュンヘンと比較して展示会全体としての来場者の絶対数は少なかったようですが、実需客と申しますか、実ビジネスにつながるお客様が多かったような印象を受けました。当社にとっては有意義な商談機会となりました。当社ブースの来場者は地元スペインのほか欧州、インド、インドネシア、イラン、シリア、アルゼンチン、コロンビアの方が目立ちました。中国の方が意外と少なかった。そしてトルコの復活が特徴です。中国からの衣料品

輸出攻勢で少し元気がなかったのですが、繊維機械の大市場として戻ってきました。

石丸 1999年6月のパリ展以来の久しぶりのITMA視察でした。2002年まで染色機器を手がけ、その後他部門に異動したため、12年ぶりとなりました。その当時の繊維機器産業はまだ華やかといえる時代で、それと比べると今回のバルセロナ展は規模も小さくなりました。

ITMAは原料から縫製の手前までの繊維の加工がすべて分かる展示会です。そして機器を販売するという商談の場以上に自社の技術を展示会で発表し、その評価を問う場です。しかし、今回の展示会は、自社を含めてあまり代わり映えせず、正直なところ感銘は受けませんでしたね(苦笑)

私見ですが、環境にやさしいグリーン・テクノロジー 高速化など生産性の向上 連続化による生産工程の合理化 衣料用から産業資材シフト といったことを強調するメーカーが多い印象を受けました。環境配慮では紡績から織・編み、プリントなどの各分野で環境へのやさしさを訴えていました。織機の世界ではやはりスピードを競い、そして、綿から不織布、あるいはフェルトなどを製造する際に、従来の2工程、3工程を1工程に省略する連続化も目に付きました。織機では毎分1000回転が実用化され、10m幅など産業資材狙いがクッキリと浮かび上がる内容でした。

一ノ瀬 1991年のハノーバー展以来、毎回視察に訪れています。初日、2日目の来場者は多かったようですが、わたしが訪問した展示会後半は来場者が少なかったような気がしました。金融不安が強まるなど欧州経済が波乱の様相を呈しているためかもしれないですね。

当社が生産するインクジェットプリント機では、今回12社が最新機種を持ち込み、来場者にアピールしていました。前は8社程度でしたから新規参入組を迎えて市場としての

規模が広がってきたと考えています。

画期的技術 見当たらず

他社の出展にはどのような印象をお持ちでしょうか。

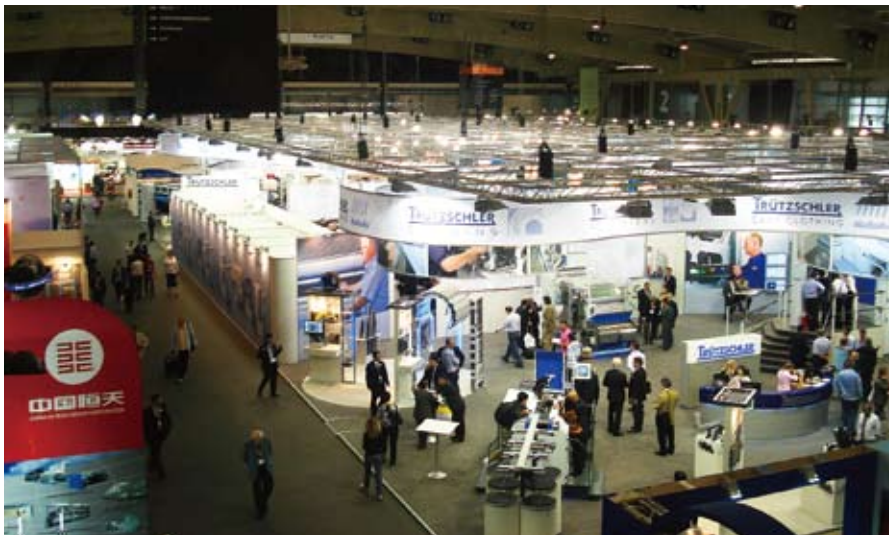
石丸 当社が得意分野とする液流染色機では約30社が出展参加していました。当社を含め、斬新な技術開発、新機構は見られず、新味は感じませんでした。改善・改良が中心となった展示でした。

当社が液流染色のラピッドサーキュラー染色機を開発したのは1974年です。直後のITMAで発表し大きな注目を浴びました。染色時間が従来の3分の1で、エネルギーコストが2分の1、風合いに優れるなどの特徴が評価されたものです。その後、THIES社の気流染色機エアフローや当社のエア・サーキュラーも画期的な染色技術として評価されました。液流染色機に限らずITMAで評価を得ると、次回の展示会は追随機種のオンパレードというのがこれまでの経過ですが、全体を通じて今回は追随すべき新技術が見当たらず

なかったように思います。

インクジェットプリントは、いよいよ実用機として「本物に化けてきた」という印象を受けました。12年前のパリ展がハシリでしたが、当時と比べ格段の進歩を遂げていると感じました。本当にそうかなと思いますが わたしは素人でよく理解していませんが、欧州では「省エネで環境にやさしい」といわれ、その普及が目覚ましいと参加者から聞きました。東伸工業さんをはじめとしたプリント機メーカー御三家以外にもコニカミルタJさんなどの紙印刷機のメーカーが本格的に参入してきたことで、業界に大きなインパクトを与えました。

一ノ瀬 インクジェットプリントは、オフィスにあるインクジェットプリンターと基本的に同じ機能を持つ大型のプリンターによる捺染です。従来の捺染が捺染型の彫刻、色糊の調整などに多くの時間とコストを費やしたのに比べ、デザイン作成からプリントの仕上がりが格段に速くなるという特徴を持っています。また、無限に近い色を再現でき、水の消費を抑え、環境に対する負荷が軽減できるという画期的なシステムです。



ITMAは世界最大の繊維機械見本市。世界中から最新技術が集まる

